

2022年7月29日
日本銀行横浜支店

神奈川県金融経済概況（2022年7月）

I. 概況

神奈川県の景気は、供給制約の影響を受けながらも、新型コロナウイルス感染症の影響がひと頃に比べて和らぐもとで、基調としては持ち直している。ただし、資源価格上昇などの影響には、注視が必要である。

輸出は緩やかに持ち直している。生産は持ち直しのペースが鈍化した状態が続いている。設備投資は回復している。雇用・所得環境は持ち直しの動きがみられている。個人消費は足もと弱めの動きもみられるものの、緩やかに持ち直している。住宅投資は緩やかに持ち直している。公共投資は横ばい圏内の動きとなっている。

金融面をみると、貸出は、緩やかな増加傾向に復しつつある。預金は、引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 輸出： 供給制約の影響が和らぐもとで、緩やかに持ち直している。

- ・ 22/6月の横浜港の輸出額は、米国向けに自動車の部分品が増加したことなどから、前年を上回った。

(2) 生産： 供給制約の影響から、持ち直しのペースが鈍化した状態が続いている。

- ・ 素材関連は、回復している。
- ・ 輸送機械は、供給制約の影響が幾分和らぐもとの、緩やかに持ち直している。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、増加している。
- ・ 電気機械は、供給制約の影響から、弱い動きとなっている。

(3) 設備投資： 回復している。

- ・ 22/6月短観では、21年度の設備投資は、半導体の需要増に対応した能増投資などから前年度を上回った。22年度は、引き続き半導体の需要増に対応した能増投資や物流関連投資などから、2年連続で前年度を上回る計画となっている。

(4) 雇用・所得環境： 新型コロナウイルス感染症の影響がひと頃に比べて和らぐもとの、持ち直しの動きがみられている。

- ・ 22/6月の有効求人倍率（就業地別）は、前月から上昇した。22/4月の常用雇用者数と名目賃金は前年を上回った。

(5) 個人消費： 足もと弱めの動きもみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響がひと頃に比べて和らぐもとで、緩やかに持ち直している。

- 百貨店販売額は、持ち直している。
- スーパー販売額は、弱い動きとなっている。
- ドラッグストア販売額は、堅調に推移している。
- 家電販売額は、持ち直しの動きがみられている。
- 新車登録台数は、供給制約の影響から、足もと弱めの動きとなっている。
- 宿泊施設の客室稼働率は、足もと弱めの動きもみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響がひと頃に比べて和らぐもとで、緩やかに持ち直している。

(6) 住宅投資： 緩やかに持ち直している。

- 22/5月の新設住宅着工戸数は、分譲マンション、分譲戸建て、持家、貸家がいずれも減少したことから、全体でも前年を下回った。

(7) 公共投資： 横ばい圏内の動きとなっている。

- 22/6月の公共工事請負額は、独立行政法人等、県、国、市町村が増加したことから、全体では前年を上回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 緩やかな増加傾向に復しつつある。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、緩やかな増加傾向に復しつつある。個人向けは住宅ローンを中心に増加している。法人向けは運転資金を中心に緩やかな増加傾向に復しつつある（貸出金末残前年比：22/4月+0.5%→5月+0.6%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、緩やかな低下傾向にある（月末貸出約定平均金利：22/4月0.987%→5月0.985%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：22/4月+4.1%→5月+3.8%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。